

## な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
編集  
なかま編集委員会  
〒285-0025  
佐倉市鍋木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

2 ページ 「佐倉むらさきの会」との出会い ..... 折田純子

要約筆記のこと ..... 北澤 誠

3 ページ 犬猫の糞尿、お断り ..... 奈良睦夫

高宕山 ..... 長谷山巖

## タコのパウエル君

坂本 初男

昨年の6月から7月にかけて、南アフリカ共和国で行われたサッカーワールドカップ2010では、日本代表チームの大活躍で、日本全体が大いに盛り上がりました。私も、にわかファンとなり、連日、大いに興奮し感動しました。

その時、タコのパウエル君が大活躍したのを覚えている方も多いのではないのでしょうか。パウエル君は負けた2試合を含めドイツが対戦した7試合とオランダ対スペインの決勝戦の計8試合の勝ちチームを占って、全て正解しました。

私はパウエル君が本当にサッカーの勝敗を占う能力があるとは考えにくいので、こんな偉業を達成するには、別の何かの影響しているのではないかと考えてみました。

テレビでパウエル君の報道があつても、初めのころは、面白いとは思つても、単なる偶然と軽く聞き流していた人が多かつたと思います。

しかし、正解を重ねるに従い、次の試合の予想も当たるのではないかと期待したり、不安を感じた人も多かつたのでは無いでしょうか。まして、負けを予想された国の人達の心中は穏やかではなかつたと想像します。

このことは、ファンの人達以上に選手は大きな影響があつたと考えられます。勝ちを予想されたチームと負けを予想されたチームでは、精神状

態は大きく違つてくるはずで、勝ちを予想されたチームは勢いが付き、負けを予想されたチームは不安の中で戦うこととなります。

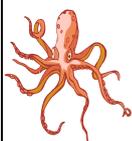
このような精神状態がプレイにも影響して、パウエル君の予想した通りの結果になつてしまつた、と考えることはできないでしょうか。

人間は日常生活の中でも、結構、暗示に左右されながら生きていくような感じがします。例えば、朝のテレビ番組でやる運勢占いで、今日は良いことがあると言われると何となく期待したり、嫌な事があるとと言われると何となく不安になつたりするものです。

いつも自分に良い暗示をかけていると、気分も爽快になり、人生にも前向きになると言われています。

人生を明るく、前向きに生きて行くためにも、自分に良い暗示をかけることを心がけたいものです。

(編集委員)



## 「佐倉むらさきの会」 との出会い

佐倉市民カレッジ・二年生の授業の中で松田喜好先生による『源氏物語』が面白く三・四年生には組まれていないことを残念に思っていました。そのような折、「サークルとして立ちあげるので参加しませんか」と、声をかけられ気付けばスタッフの一員となっていました。

このサークル「佐倉むらさきの会」との出会いにより、たくさん喜びがもたらされました。念願だった松田先生の『源氏物語』を月一回、聴講できるのですから。松田先生のユーモアを交えた講義・源氏の雅な世界に酔いしれます。

また、立ちあげ・運営にあたり文書の作成が必要になるからとパソコンの得意なスタッフの方から手ほどきを受けました。便箋・カレンダー等パソコンでの遊び方も教わり

楽しい時間を過ごしました。

スタッフの仲間は、多趣味で、その中のひとりには和綴じ本を作ります。教材用プリントを束ねて和綴じ本にしたら他にはない自分だけの『源氏物語』ができあがりです。希望される会員の方にお教えするためには先ずスタッフからと、素敵な和綴じ帳が仕上がりました。講習会に参加された会員の方々にも喜んでいただきました。スタッフ全員女性ですので、昼食時には手作りの総菜や漬物を味わいつつその調理方法を教えあったり。それがまたお腹も一杯です。それから満ちたりたひと時となります。

開講から早一年半、ひとえに松田先生のご尽力による賜物です。毎回、会員皆で『源氏物語』の原文を朗々と音読します。これが、楽しみでこの会に関わることにより体験できる素晴らしさに感謝

(栄町 折田純子)

## 要約筆記のこと

「息子の結婚式に、初めて要約筆記のノートテイクの人に来てもらって、司会の進行も偉い人のスピーチもよくわかって感激しました。娘のときは隣の妹が『今は上司の挨拶』とだけ書いてくれるくらいで、何もわからずに座っているだけでしたから」。

難聴が進み、今ではほとんど聴力ゼロというさんが語った体験である。ほとんどの失聴者が同じ体験を持っている筈だが、要約筆記者を頼む例は少ない。たいていの場合挨拶を交わすにも相手の言葉は聞こえず、華やかな場の中で作り笑いも哀しく、苦痛の時間に耐えているだろう。

要約筆記とは、聞こえが不自由な人に筆記で通訳することである。耳の聞こえない人と言うと手話をイメージされやすいが、じつは成人後に失聴あるいは難聴になった人の

多くは、手話は不得手で、筆談が安心のコミュニケーション方法なのである。そういう人へのサポート手段の一つが要約筆記というわけである。

結婚式に限らず社会生活の様々なシーンで聞こえないために疎外され、あるいは不利な立場に立たされるのは周囲の無理解ゆえの見えないバリアに他ならない。耳が不自由な人には耳に代わるサポート手段で聞こえる人と同等の情報伝えていることが重要であって、すなわち人権を守ることにつながる言葉よう。

聞こえない人の為に要約筆記者を派遣するのは市町村の事業として位置付けられているが、このことを知る人も少ない。自分や身近な人がいつか聴力を失わないという保証はないし、中途失聴者、難聴者の実情や要約筆記に関心を持つことが大切と思う。

(中志津 北澤 誠)

## 犬猫の糞尿、

### お断り

我が家は、犬も猫も飼っていない。飼っている方は、どなたも家族同様の愛情を持っているようだ。

最近では、外で遊ぶ子供達の姿があまり見られなくなつた半面、犬と散歩する大人達の姿がやけに目につく。

以前は「小便お断り」の張り紙を見かけたが、これに代わり近頃では「犬のふんは飼い主が…」が目立つ。

『なかま』の九月号に投稿された鈴木さんの「猫殿に完敗」の記事の通り、我が家の横の路地にも犬猫の糞尿の未処理が跡を絶たずウンザリしている。以ての外である。

ある自治体では歩き煙草と同様に、定められた場所でのさせつ放しの飼い主には二千万の過料が科せられることになつており、他でもこの動きがあると聞く。

だが、わが佐倉市では先の

十月十五日付、「こうほう佐倉」で「マナーを守って飼っていますか？」と飼い主に呼びかけてはいるがまだ条例で定めるかの検討は為されていないようだ。是非厳しく取り締まつて欲しい。

また、猫を犬のように紐で繋いで飼っている愛猫家も見かけられる。その気遣いには盛大な拍手を送りたい。

犬猫を本当に愛するならばルールに沿つた飼い方を「是非」と言うよりも、「必ず」守つて頂きたい。

一部の心ない飼い主の為に飼っていない人には勿論、本当の愛犬家や愛猫家の皆さんにも大変な迷惑を掛けていることを肝に銘じて欲しい。

私は、本日この紙面をお借りし、犬猫に心から愛情を注ぐ皆さんに気持の良い町づくりを目指して頂くよう切にお願いしたい。

(井野 奈良睦夫)

## 高宕山

山が趣味の私は、気が向けば「高宕山(330メートル)」に登っている。房総半島のほぼ中央に位置するこの山は、清和県民の森に属する一山である。クヌギ、ヒノキ、コナラ、

カエデなどの緑濃い山で、天然記念物ニホンザルの棲息地でもある。またイノシシも大変多い。山頂からは、幾重にも連なる山稜や東京湾が眺められる。山頂下にある高宕観音は、源頼朝が源家の再興を祈願した場所として知られている。

この山は、私に四季折々の楽しみを与えてくれる。三月下旬新緑の頃やさしい緑が山を包む、心洗われる時期である。四月の山桜は孤独を楽しむように、ぼつん、ぼつんと木々の緑の中で咲いている。

六月はギンリヨウソウが見られる。ユウレイソウとも呼ばれ、色素がなく透明感のある

白でめずらしい植物である。そして岩肌へばりつくようにして、イワタバコが小さな紫の可憐な花を咲かせる。八月は暑さの中で、タマアジサイが淡い紫と水色の清楚な花を咲かせる。蕾はピンポン玉そっくりである。そして紅葉は十二月になる。

四季折々楽しめる山であるが、地形が複雑で獣道が多くルートを外すと大変なことになる。単独行の私は、山に入る時は、地図に予定ルートとタイムスケジュールを記入し家内に渡す。ザックには救急用品、非常食、余分な水、雨具、そしてツェルト(簡易テント)を入れる。

昨年の夏は日照り続きで山のタマアジサイが、立枯れするのではと心配したが、無事雨も降り安心した。今年のシーズンが楽しみである。

(井野 長谷山 巖)



## 2月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等の修正をさせていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

### わくら道

ある時、子うさぎのかわいらしさに衝動買いをした。うさぎの知識も無いのに一式揃え、家に連れて帰った。犬を飼った時の感覚で声をかけたが、目をぱちりともせず、鼻をひくひくするだけのうさぎに愕然。後悔先に立たずである。唯一、頭をなでると目を細めうっとりする。今では、この無愛想なうさぎに、私も主人も癒されているのだが

### あとがき

毎月二回開催される編集会議に新入委員として参加し始めて、半年が過ぎました。

委員の諸先輩は多士済々、佐倉の歴史は何でも来いの碩学の翁、漢字送り仮名や語法を熟知する国語学者、草木やその形態に詳しい植物博士、本誌に懸ける思いを熱く語る熱血の士と、編集会議は文字通り百家争鳴、談論風発、午後から始まった会

らおもしろい。一旦生命を預かった以上は、最後の時が来るまで大切にしたい。

ペットブームの昨今、毎日多くの動物が処分されていると聞く。諸事情あつての事とは思つが、飼い主は生命の重さを再認識すべきである。

うさぎ年スタートから一ヶ月。世の中の平穩無事を切に願う。

（栗田勢子）

議の時計が四時を回ることも珍しくありませんでした。末席で先輩諸氏の話をつムつムと聞いている私ですが、早く議論の輪に入っ て行きたいと思えます。

投稿原稿の在庫が少々減少気味であるとか、同一投稿者に頼りがちであるといった問題点も最近では見えてきました。読者の皆様の積極的な出稿をお願いいたします。

（田村孝則）